

令和３年度 阿波市総合教育会議 会議録

(1)会議 開催日

令和３年１１月２４日（水） 阿波市役所 ３階 大会議室
午前１０時００分から午前１１時２０分まで

(2)出席委員の氏名

市 長	藤井 正助
教 育 長（委員）	高田 稔
教育長職務代理者	庄野 憲二
委 員	重清 由充
委 員	大戸井 美生
委 員	森 勝正
委 員	西渕 利江

(3)委員を除く、議場に参加した人の氏名

阿波市議会 議長	松村 幸治
阿波市議会副議長	笠井 安之
阿波市議会 文教厚生常任委員会	
委員長	木村 松雄
副市長	町田 寿人
副市長	春木 尚登
教育部長	石川 久
教育部次長	瀧川 靖治
教育部次長	森友 邦明
学校教育課長	坂東 明
社会教育課長	伊坂 典恭
学校給食センター所長	矢部 泰世
企画総務部長	坂東 孝一
企画総務部次長	稲井 誠司
企画総務課課長補佐	石川 学

(4)傍聴人 1名

稲井次長	皆さんお揃いですので、ただ今から『令和３年度 阿波市総合教育会議』を始めさせていただきます。本日、司会進行をさせていただきます企画総務課 稲井と申します。本日の出席者につきましては、別紙２の席次表のとおりでございますので、紹介に変えさせていただきます。 それでは始めに、「藤井市長」よりごあいさつを申し上げます。
藤井市長	本日、令和３年度「阿波市総合教育会議」を開催しましたところ、阿波市議会より、松村議長を始め、笠井安之副議長、木村文教厚生常任委員会 委員長には、公私共に大変お忙しい中、ご臨席を賜りまして誠にありがとうございます。 また、ご参会の教育委員の皆様方には、日頃より、本市の市政運営、とりわけ、本市教育行政の推進に、格別のご尽力を賜っておりますことに、心から厚く御礼を申し上げます。 さて、本市では、「安全・安心のまちづくり」、「活力あふれるまちづくり」、「子育て応援のまちづくり」を施策の中心に据え、「持続可能な阿波市」の構築に取り組んでおります。 教育分野においては、子どもたちや市民の皆様の安全・安心を確保し、豊かな学びを育むため、教育施策の充実に取り組んでいるところです。 こうした状況を踏まえ、本市では、現在、徳島県と連携を図り、昨年の会議でご審議頂きました、「G I G Aスクール構想」を実現するため、児童・生徒一人一台のタブレット型パソコン端末配備と、高速大容量ネットワークを一体的に整備し、子どもたち一人ひとりの「学び」や、創造性を「育む」教育を進めております。 このように教育現場が新たな局面を迎え、教育環境の更なる充実・強化が求められる中、「阿波市総合教育会議」は、市と教育委員の皆様方が、互いの役割・権限を尊重し合いながら、意見交換を重ね、将来像や課題を共有し、より一層「子どもは阿波市の将来を担う大切な宝」との共通認識を深めることのできる、良い機会の場合と捉えております。 本日は、「新たな阿波市教育大綱の策定」と「食育を基盤にした、知・徳・体の調和のとれた生き抜く力の育成」について、ご協議頂くこととしておりますので、委員の皆様方には、それぞれのお立場から忌憚のないご意見・ご提言を頂きますよう、よろしくお願い申し上げまして、開会の挨拶とさせていただきます。 本日は、どうぞよろしくお願い致します。
稲井次長	ありがとうございました。続きまして、「高田教育長」よりごあいさ

高田教育長	つを申し上げます。 本日は、松村議長・笠井副議長、木村文教厚生常任委員長のご臨席のもと、阿波市総合教育会議が開催されますことをたいへんうれしく思っています。 最初に、この場をお借りしまして、教育環境整備等についてご報告させていただきます。 まず、今年度、学校教育関係では、土成小学校大規模改修工事、土成中学校夜間照明防球ネット工事、久勝小学校プール大規模改修工事が着々と進められております。また、特別教室の空調設備についても、小中学校理科室、小学校家庭科室と設置を進めております。 社会教育関係では、伊沢公民館大規模改修工事、市場郡民グラウンド大規模改修が行われ、工事はすべて予定通り進んでいる状況です。 さらには、今年度中に、すべての小学校４・５・６年生の教室に電子黒板を配置いたします。このことにより、タブレット端末の活用をはじめ、一層、ICT 機器を活用した学習が充実し、子どもたちの学びが深まるものだと考えています。 市長並びに議会の皆様方には、常に、子どもたちの教育環境整備の充実に、ご理解とご支援をいただき、心から感謝申し上げます。ありがとうございます。 さて、本市の教育行政は、市の最上位計画である第２次阿波市総合計画をはじめ、平成 27 年に策定した教育大綱、さらには、教育振興計画に基づき進められております。 そして、この総合教育会議は、市長と教育委員会が、十分な意思疎通を図り、地域の課題やあるべき姿を共有して、より一層、民意を反映した教育行政を推進するために行う会議となっております。 「子育てするなら阿波市」「子育て応援のまちづくり」のさらなる実現に向け、取組への成果や課題に評価を加えながら、今後の教育行政施策を進めまいりたいと考えています。 本日も、どうか忌憚のないご意見をいただきますようお願いいたします。 稲井次長 ありがとうございました。それでは、議題に入りたいと思います。議事の進行は主催者であります藤井市長にお願いしたいと思います。 市長、よろしくをお願いいたします。
--------------	---

藤井市長	それでは、次第に従いまして議事を進めてまいりたいと思います。皆さんご協力のほどをよろしくお願いいたします。 まず、議題１、『新たな「阿波市教育大綱」の策定（案）について』であります。 事務局から説明をお願いします。
瀧川次長	最初に、資料の説明をいたします。資料１の①は、新たな「教育大綱」（案）です。資料１の②は、本日のプレゼン資料です。資料１の③は、これまでの教育大綱です。 それでは、新たな「阿波市教育大綱」（案）について、説明いたします。 初めに、阿波市教育大綱の法規上の位置付けについて説明します。 阿波市教育大綱は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の規定に基づき、本市における教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の目標や根本となる方針を定めるものです。 この総合教育会議において、市長と教育委員会が協議・調整を尽くし、市長が策定するものです。 「阿波市教育振興計画」の施策の目標や根本となる方針の部分を「大綱」とすることも可能です。これまでの教育大綱も、「第１次阿波市教育振興計画」の基本方針をもって、大綱としていたので、今回も「第２次阿波市教育振興計画」の基本方針をもって、新たな「大綱」に代えさせていただきたいと考えています。 推進期間は、国の「振興基本計画」の対象期間と同じ、５年としたいと考えております。 本市には、教育に関する３つの計画があります。「第２次阿波市総合計画」、「第２次阿波市教育振興計画」、「阿波市教育大綱」です。 これら３つの計画の関係について説明します。「阿波市教育大綱」は、教育分野についての「阿波市総合計画」の上位概念にあたります。また、「阿波市教育大綱」の行動計画が、「阿波市教育振興計画」です。 次に、３つの計画の対象期間について説明します。 本年度は赤矢印のところですが、「阿波市総合計画」では「前期基本計画の最終年度」に当たります。また、「阿波市教育振興計画」では初年度に当たります。これまでの「阿波市教育大綱」は、策定されてから６年が経ちましたので、本年度、新たな「教育大綱」を策定する必要があります。新たな「教育大綱」は「教育振興計画の前期計画」と対象期間を同じにして、連携を図りながら取組を進めてまいりたいと考えてい

	ます。 次に、3つの計画のつながりについて説明します。 左の表、平成27年度に策定されたこれまでの「教育大綱」には、8つの基本方針がありました。これら基本方針は、その2年後に策定された右表、「第2次阿波市総合計画」では、3つの重点テーマ、11の施策の中に反映されました。例えば、教育大綱の「基本方針1」は総合計画の①～③の施策の中に反映されています。 次に、「第2次阿波市総合計画」と「第2次市教育振興計画」との関係について説明します。 左表、「阿波市総合計画」の「青文字」の項目を、右表、「第2次教育振興計画」では、1つのまとまったカテゴリーとして、基本目標の一本の柱としました。例えば、「総合計画の②」にある青文字「学校教育」を「教育振興計画 基本目標1のカテゴリー」として位置付けました。そして、「総合計画の①～③の施策」をこの基本目標に反映させました。また、「総合計画の⑧国際化」「⑨人権」をまとめて、「教育振興計画の教育目標6のカテゴリー」として位置付け、「総合計画の⑧～⑪の施策」をこの基本目標に反映させました。 次に、「第2次阿波市教育振興計画」と新たな「教育大綱」との関係について説明します。 先ほど、申し上げましたとおり、「第2次阿波市教育振興計画」の基本方針をもって、新たな「教育大綱」に代えさせていただきたいと考えていますので、左表、「教育振興計画の基本理念」を「踏まえて」、右表、「教育行政の基本方針」を「未来の阿波市を担う」3つの「人づくり」といたしました。また、「教育振興計画の基本目標」をもって、「新たな教育大綱の教育目標」に代えさせていただきました。 以上を踏まえまして、「資料1－①」、新たな「教育大綱」（案）をごらんください。 新たな「教育大綱」（案）では、「策定の趣旨」を明確にしました。 この大綱は、本市における教育、芸術、文化及びスポーツ振興に関する総合施策について、その目標や施策の根本となる方針を定めるものです。 現在、グローバル化や情報化の進展、少子高齢化の進行、新型コロナウイルス感染拡大など、社会情勢はめまぐるしく変動し、人口減少社会への対応や、地方創世の原動力となる将来を担う「人づくり」が喫緊の課題とされるなど、教育を取り巻く環境は急激に変化しています。 今後、阿波市が「持続可能な地域」となるよう、この大綱に沿って、
--	---

藤井市長	本市の教育力を結集させ、「安全・安心のまちづくり」「活力あふれるまちづくり」「子育て応援のまちづくり」の担い手となる「人づくり」に全力で取り組みます。 次に、「基本方針」ですが、先ほど説明しましたとおり、3つの人づくりを位置付けました。また、推進期間は、令和3年度から令和7年度までの5年間としました。 次に、教育目標と教育施策について説明いたします。 これも先ほど説明しましたとおり、「第2次阿波市教育振興計画」の教育目標をもって、新たな「教育大綱」の教育目標に代えさせていただきました。また、「教育施策も」同様といたしました。 次に、SDGs（持続可能な開発目標）の成果指標の設定をしました。本市においても、関連するすべての分野において取組を進めております。 以上、「第2次阿波市総合計画」や「第2次阿波市教育振興計画」とのつながりが明確になるよう、新たな「教育大綱」の策定を行いました。 これで、新たな「教育大綱」（案）の説明を終わります。 事務局から『新たな「阿波市教育大綱」の策定（案）について』資料に基づき説明がありました。この件につきましてご質問等をいただきたいと思います。
森委員	それでは、森委員、お願いいたします。 教育委員の森でございます。本日のテーマの一つであります『阿波市教育大綱』の策定（案）について私の思っていることを、まとまりのない内容ですが、述べさせていただきたいと思います。 最初に教育大綱については、只今説明があったように「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の規定に基づいて、本市における教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の目標や根本となる方針を定めることが求められています。ですから、本市の場合は「第2次阿波市振興教育」の前期計画との関係で、本年から5年間の期間のものを策定しなければなりません。 つまり、法律に定められ必ず策定しなければならない非常に重要なものであると思います。 内容的には、前回の教育大綱、「第2次阿波市総合計画」や「第2次阿波市教育振興計画」の内容を検討し整理されたものになっていると思

	います。 このことによって、本市教育委員会が毎年実施している、PDCA サイクルの発想に基づいて、市民アンケートも実施し、その成果に基づいて事業実践した事柄を評価し、更により良いものにする評価項目・事業項目との関連がより明確になっていると思います。 更に、表現も「基本方針」で、目指すところは「人づくり」であるとしています。やはり教育の行き着くところは「人づくり」であるとの認識は重要であると思います。 そして、阿波市が「持続可能な地域」となるようにという言葉があるように、2016 年から国際社会の共通目標となっている SDGs として、17 のゴールと 169 のターゲットから構成されているものですが、これは「環境問題と社会問題を解決することなしに全世界の発展はない」という概念が盛り込まれています。これを取り入れることは、国際社会と歩調を合わせて教育の方向を定めていこうとしていることなので非常に評価できると思います。 以上のように、この「阿波市教育大綱」は教育の本質や時宜にかなっていて、本市に相応しいものになっていると確信しています。 最後に、この教育大綱が絵に描いた餅に終わることなく、児童生徒に直接向かい合っている教育関係者・子どもから大人まで学校以外での社会教育に取り組む指導者等と行政が連携しながら、そして、市民も積極的に本市の子どもたちの教育や社会教育等に関心を持ち、目指すところを理解し、目標まで高められるように期待しています。また、私自身も積極的にかかわりながら進めていけたらと思います。
藤井市長	ありがとうございました。続いて、大戸井委員、お願いいたします。
大戸井委員	教育委員の大戸井です。よろしくお願いします。 新たな「阿波市教育大綱」の策定（案）について、特に質問はありませんが、感想を述べさせていただきます。 阿波市教育大綱策定については、第二次阿波市総合計画及び第二次阿波市教育振興計画との位置付けから、相互の関連性、期間等が十分に考慮され、しかも、市民にもよく分かる内容となっており、5年間の推進期間にふさわしい内容になっておると評価できると思います。そして、阿波市教育大綱策定の趣旨にもありますように、今後新たな「阿波市教育大綱」全力で取り組んでいただくことを希望いたします。以上です。

藤井市長	ありがとうございました。続いて、庄野職務代理、お願いいたします。
庄野職務代理	教育委員の庄野です。よろしくお願いします。 森委員や大戸井委員と同じような意見で、「阿波市教育大綱」についてですが、今回の策定で「阿波市教育大綱」と「阿波市総合計画」「阿波市教育振興計画」との関係性や系統性がより、明確になったと思います。今まで、頭の中でこんがらかっていた部分がありましたが、大綱では未来の阿波市を担う人づくりを基本方針とし、具体的な行動計画を教育振興計画に示して、推進期間も同じにしたことで、すっきりしました。 また、森委員もおっしゃっていましたが、最近大切だとされているSDGs との関係性も取り入れている部分もすばらしく、この案ですすめていただきたいと思います。
藤井市長	ありがとうございました。ほかに、ございませんか。 それでは、改訂案のとおり決定することで、ご異議ございませんか。 (異議なし) ご異議がございませんので、新たな「阿波市教育大綱」を決定いたします。なお、改訂した場合には、遅滞なく、これを公表しなければならないことから、11月改訂といたします。 それでは、続きまして、議題2、『食育を基盤にした、知・徳・体の調和のとれた生き抜く力の育成について』、その中の「令和3年度全国学力・学習状況調査結果」について、事務局から説明をお願いします。
瀧川次長	それでは、最初に資料の説明をします。資料1の①は、HPで公表用の資料です。資料1の②は、本日のプレゼン資料です。これからの説明は、プレゼン資料を使って行います。プレゼン資料1P上、をご覧ください。 令和3年度全国学力・学習状況調査結果について説明いたします。 この調査は、5月に小学校6年生と中学3年生を対象に実施されました。調査教科は、国語、算数、数学です。 次に、教科ごとの調査結果について説明します。小学校「国語」については、漢字や語句、文法に関する基礎的な問題について、全国平均を上回っています。しかし、必要な情報を見付けながら読んだり、理由を明確にして考えを書いたりすることに課題があります。小学校「算数」については、「変化と関係」の知識・技能に関する問題が、全国平均と同程度となっています。しかし、「データの活用」や「図形」の問題において、複数のデータを比較し、その割合を言葉や数を用いて書くこと

	などに課題が見られます。 中学校「国語」については、古典や漢字、文法に関する基礎的な問題について、全国平均を上回っています。しかし、目的に応じて資料を読み解き、自分の考えを書くことに課題があります。中学校「数学」については、「数学的な技能」「数量などについての知識・理解」について、全国平均を上回っています。しかし、「関数」や「図形」の問題において、日常的な事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を説明することなどに課題があります。 次に、学習状況調査結果について説明をいたします。「平日に授業以外で1時間以上勉強する児童・生徒」の割合ですが、阿波市の小学生は55%、全国平均は63%、阿波市の中学生は83%、全国平均は76%となっています。阿波市の小学生は、学校以外の勉強時間が全国平均より短く課題となっています。阿波市の中学生は、3年前の小学6年生当時の調査では、全国平均を下回っていましたが、今回の調査では、全国平均を大きく上回り改善が図られています。このことも一因となり、学力が向上して、国語・数学ともに全国平均と概ね変わらない結果となっています。 次に、「新型コロナ感染拡大に伴う休校期間中に勉強に不安を感じた」と回答した児童・生徒は、阿波市小学生62%、全国平均55%、阿波市中中学生75%、全国平均63%となっています。阿波市の子どもたちは、学校再開時には勉強に大きな不安を抱えてスタートしたことがわかります。 次の調査項目、「学校に行くのは楽しいと回答した児童・生徒」ですが、阿波市小学生は54%、全国平均は48%、阿波市中中学生は49%、全国平均は43%となっています。この調査項目について、全国ではコロナ禍前の調査（平成31年度調査）と比べて6%減少して、大きな問題となっていますが、本市の子どもたちは、6%高い結果となっているので、平成31年度調査の全国平均を維持しています。阿波市内の小・中学校は、不安を抱えてスタートした子どもたちに寄り添い、充実した教育活動を実施したといえます。 次の小学校の調査項目、左のグラフについて、「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童は、全国平均と比較すると7%高いことが分かりました。また、「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている」と回答した児童も、全国平均を大きく上回っており、目標や夢の実現に向けて、努力を続けていることが分かります。 次に右のグラフについて、「いじめはどんなことがあってもいけない」
--	---

	と回答した児童は、全国平均と比較すると 4%高いことが分かりました。また、「人の役に立つ人間になりたい」と回答した児童も、全国平均を大きく上回っており、人を大切にする気持ちが育っていることが分かります。 次の中学校の調査項目、左のグラフについて、「自分にはよいところがある」と回答した生徒は 36%で、全国平均と比較すると 1%高いことが分かりました。3 年前の小学 6 年生当時の調査では、全国平均より 2%低かったので、自己肯定感が育ってきています。子どもたちの良さを認めたり、達成感を味わわせたりする教育活動が実施されてきたことが分かります。 次に右のグラフについて、「人の役に立つ人間になりたい」と回答した生徒は 83%で、全国平均と比較すると 9%高いことが分かりました。また、「いじめはいけない」と回答した生徒も、全国平均を上回っており、小学校同様、人を大切にする気持ちが育っていることが分かります。 次に、「ICT 機器を活用した授業をほぼ毎日行った」と回答した学校は、阿波市小学校 80%、全国平均 51%、阿波市中学校 75%、全国平均 58%となっています。阿波市内の小・中学校では、積極的に ICT 機器を使った授業が実施されていたといえます。 次に、「生活習慣・学習環境と正答率のクロス集計」結果について、説明をいたします。まず、「朝ごはんを食べること」と正答率の関係についてですが、「朝食を毎日食べていますか」との質問に対する小学生の回答と、各教科の正答率の関係はこのグラフのようになりました。なお、中学生においても概ね同様の結果となっています。この結果から、朝ごはんを食べている児童・生徒の正答率がすべての教科において高い傾向にあることが分かります。また、朝ごはんを全く食べていない児童・生徒は正答率が低い傾向があることが分かります。 次に、「学習内容について分かった点、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげること」と正答率の関係についてですが、この調査項目に対する中学生の回答と、各教科の正答率の関係はこのグラフのようになりました。なお、小学生についても同様の結果となっています。この結果から、分からなかった点などを見直し、次の学習につなげている児童・生徒の正答率がすべての教科において高い傾向にあることが分かりました。 以上の調査結果を踏まえ、阿波市の学力向上への取組方針ですが、次の 7 点を中心に取組を進めてまいります。 ○学力向上のための教員の研修会を実施し、指導方法の工夫改善に努め
--	--

	ます。 ○学力向上推進講師を派遣し、TT 指導や放課後学習を行います。 ○ICT を活用した学力向上のための取組を推進します。 ○学力向上推進コーディネーターが学校を訪問し、授業改善等の指導を行います。 ○授業公開や研修会等、小中学校の連携を進め、共通取組体制の確立を進めます。 ○読書活動の推進を図り、児童生徒が読書を通して言語に関する興味や関心を高める取組を促進します。 ○家庭と連携して、家庭学習の充実を図ります。 また、学力向上のためには、保護者や地域の皆さんとの連携が必要です。したがって、家庭学習の充実や基本的な生活習慣の確立に向けて、次のことの徹底が図られるよう広報や助言をまいります。 ・「家庭で学習する習慣を身に付けさせるために」以下4点について。 ・「基本的な生活習慣を身に付けさせるために」以下3点について。 ・「新聞や本を読む習慣を身に付けさせるために」以下3点について。 です。 以上、令和3年度の全校学力・学習状況調査の結果分析と学力向上に向けた取組についての説明を終わります。
藤井市長	ありがとうございました。ただ今、事務局から「令和3年度全国学力・学習状況調査結果」の説明がありました。この件につきまして、ご質問等をいただきたいと思います。 はい、ご質問もないようですので、お一人ずつ、ご意見・ご感想をいただきたいと思います。 最初に、庄野職務代理からお願いいたします。
庄野委員	2 つめのテーマについてですが、昨年度は新型コロナウイルスによる臨時休校も多く、今回の調査で子どもたちにどのくらいの学力がついてきているのか心配な面もありました。今、プレゼンで説明をしていただき、子どもたちの学力や学習環境の状況がよくなっている点や今後の課題についてよくわかりました。 学習内容の領域の一定の部分や学校は楽しい、夢や希望を持っている、いじめはいけない、人の役に立つ人間になる等の心の部分は健全に育ってきていると思います。さらに、阿波市においては、ICT 機器を活

	用した GIGA スクール構想の推進やキッズソムリエの育成や学校給食の充実等、食育を基盤にした教育の充実も市の積極的な支援によって進みつつあります。 逆に、これらの課題としていくつかの点が浮き彫りになっています。朝ごはんを食べていると正答率が高いという結果が出ていましたが、毎年行っている教育委員会の点検及び評価に関する報告書によると、令和 2 年の子どもたちの朝食摂取状況は 87.3%でした。これをだいたいの子どもたちが朝食を食べていると捉えるのか、まだ 8 人に 1 人の子が朝食を食べていないと捉えるのか意見は分かれるかもしれませんが、食育を基盤としている阿波市においては、子どもたち全員が朝食を食べるように、より一層保護者への啓発・協力を推し進めていくことが大切だと考えられます。 同時に今後、子どもたちが変化の激しいこれからの未来を生き抜いていくためにはどんな力が必要なのかと考えてしまいます。近年、日本の子どもの学力における課題は、 ・判断力や表現力が十分に身につけていない。 ・勉強を好きな子が少ない、すなわち学習意欲が高くない。 ・勉強時間が少ない。 と言われていますが、調査を見てみるとまさに阿波市の子どもたちにもあてはまるようです。そもそも、子どもたちに「学力」をつけていく必要性には 2 つの面が考えられます。 一つは、個人がよりよく生きていくための基礎となり、自己実現や人格完成に必要であることです。このことが大切なことは言うまでもありません。 ただそれだけでなくもう一つ、学力は国力・国際競争力をあげる社会が必要とする人材を育てるために必要でもあります。日本は資源に乏しく勤勉さと手先の器用さを利用して国力を高めてきましたが、現在は徐々に製造業が衰退しつつあり、世界では IT 産業が発展しつつあります。日本は GDP（国内総生産）こそアメリカ、中国に次いで第 3 位ですが、世界国力ランキングや国際競争力ランキングは、弱まりつつあるし、企業においてもインターネット関連の部分で世界にだいぶ遅れをとっています。 こうした産業構造の変化により、目指す教育も変わってきています。昨年の総合教育会議のテーマ「GIGA スクール構想」の中にもあったプログラミング教育や STEAM 教育がこれから重要視される理由には、この世界の流れに対する危機感があると思われます。先日行われたオンライン
--	---

	による県・市町村教育委員の研修会のなかでも松茂町が STEAM 教育に力をいれていることが発表されていました。 近い将来、人間の仕事が AI（人工知能）にとってかわられ、現在ある職業がどんどんなくなっていくと言われています。これからの時代は知識を増やすだけではなく、AI が苦手とする課題の発見や自由な発想で問題を解決する力、創造性が必要となってくるでしょう。阿波市の教育目標でもある「生き抜く力」をつけていくためには、そうした能力を伸ばしていく教育が必要になります。 そのためには、先生方の研修もより一層必要になりますが、コロナ禍の中、コロナ対策も必要であるし、英語教育も含め教える内容は増える一方で先生方の負担は増大してきています。 今後、先生方の負担を少なくして研修や充実した教育に取り組めるようにすること、家庭との連携をより深めることが子どもたちに「生き抜く力」をつけていくことに直結してくると思います。その目標を達成するためにも阿波市からより一層のご協力や支援体制の充実をお願いいたします。
藤井市長	ありがとうございました。続いて、重清委員、お願いいたします。
重清委員	教育委員の重清です。よろしくお願いいたします。 今年度 1 人 1 台端末環境が整い、4 月より一斉学習にも個別学習にも深みを増すことになるはずでしたが、タブレットの不具合が生じ、2 学期から、本格的にスタートしたと言えます。 昨年からの新型コロナウイルスによる感染状況により、学校行事、部活動、教師の研修、研究大会などが、中止・延期になる中、学校現場は、現在も「3 蜜」を避けての授業を行なっております。 昨年は、低学年のマスク着用が難しい所もありましたが、昨年にもましての感染者数の増加もあり、換気もしっかりされており、外遊び、体育以外でのマスク着用は、徹底されております。また、各小学校・中学校において、コロナ対策として、国からの補助金で非接触式温度検知器が 3 つ、全小学校・中学校の手洗い場の半分は従来の手動式の蛇口ですが、半分を自動水栓にしてくださっております。その他、各学校で、玄関、各教室の入口にオートディスペンサーや手押し、足押しの消毒を設置し、先生方、子どもたちも学校生活を送る中で、当たり前検温・手洗い・うがい・マスク着用・消毒ができ、健康状態をしっかりチェックできています。

	こうした中で、タブレットが1台ずつ、子どもたちの手に2学期から貸与されています。先生方は、タブレット等の使用に関する業者からの説明は受けており、各学校の先生方へICT教育関係の先生方からも使用方法・ソフトについての説明も順次行われています。どの学校も一斉に使用することができればよいのですが、通信に問題が生じることもあり、ICT教育関係の先生がトラブルの対応にもあたってくださっております。 阿波市は、今年度よりICT教育関係の先生を2名から4名に増やしてくださり、中学校区に1名ずつ配属され、トラブルの度合いにより、4名の先生方が対応し、早く解決できております。 また、希望される学校にICT教育関係の先生が赴き、タブレットやパソコンなどのIT端末を利用した教育の質を高め、効率的に行なうための授業支援ソフトを活用し、わかりやすい授業をしてくださったり、先生方の質問に答えるなど、丁寧な説明に助けられているといったお話を聞いております。 タブレットの設置場所は、教室に置くことができるとよいのですが、教室内に設置できている所もあれば、狭いため、教室から近い空き教室を利用している所もあります。タブレットの使用も、学校によって異なりますが、早い学校は、1学期末から、約束をしっかりと守りながら、いろいろな場面で使われ始めています。ある小学校では、入力の方法、操作の方法を教えたら、学年に関係なくできているということで、8月・9月の約2カ月かけて、できるようになり、現在操作ができずに困っている子はいないということです。 例えば、算数の授業の中で、問題を解いている全員の児童の解く状況をリアルタイムに先生の画面で見ることができ、戸惑っている児童には、個別にメッセージを送り、ヒントを与えることができます。また、解き方の違う児童の画面を1人1人のタブレットに送り、お友達の解き方も知ることができます。低学年では、国語の授業で、字の勉強をする時、しりとりでタッチペンを使い、自分のタブレットに言葉を書いたら、その言葉が全員のタブレットに映り、隣の子が次の言葉を考える。自分の画面を見ながら全員でできるといったことも行なわれています。 子どもたちにとっては、楽しくタブレットを活用し、授業ができ、保護者も学校からの説明に理解を示してくれているということでした。 ある小学校では、先生方も、それぞれがICTに対し勉強し、タブレットを使った研究授業も、始めています。 子どもたちの状況を先生のタブレットで把握できており、ノートに書
--	---

	かせたい時は、しっかり書かせたり、発表する力をつけさせたい時は前にと、使い分けをしながら、タブレットを使っているとのことでした。 係活動にタブレット使ったりもしているそうです。中にはキーボードを打つのに苦労している子もいるようです。 また、朝から下校までの時間、高学年は、約束を守り、1日1回は、タブレットを自由に使っているという学校もあります。低学年は、先生が一台一台タブレットの充電器を抜いて、手渡して授業で使っているとのことでした。授業支援ソフトも使い始めており、最初のICTに関する研修で、職員全員の共通理解ができた上で、各学年で教材の使い方を考えられているとのことでした。 まずは、先生方が授業内容に応じて、どの場面で、ICT機器を活用すれば、授業支援ソフトを使えば、効果的か理解された上で、しっかり計画を立てられ、子どもたちの学力が着実に向上するように使っていただきたいと思います。 中学校ですが、昨年の教育会議で小学校と中学校の先生のICTに対する考え方、意識にも違いがあると申し上げましたが、お尋ねしたところ、中学校の先生方も業者からの説明、ICT教育関係の先生方にも教えていただきながら、個々の先生が前向きに取り組まれ、積極的にICT機器を使った授業が行なわれているようです。先生方が各教科ごとに話し合っているところ、個々で行なっているところ、研究授業を行なっているところもあり、接続面でスムーズにいかない時もありますが、先生方の意識も変わり、子どもたちもタブレットの使用を楽しみにしているようで、学校で自由に活用しているようです。 タブレットがしっかり使えるようになれば、生徒の理解度もチェックできるのでよいとのことでした。 この冬休みから、小学校の4年生から6年生の各教室にプロジェクター自体に電子黒板の機能が内蔵されている「電子黒板機能付きプロジェクター」を取りつけていただくことになっています。 スクリーンは、マグネット型で、とりはずしも可能ですが、先生方が準備に時間をかけなくていいように、設置したままの方が教材としてどんどん使うことができます。この「電子黒板機能付きプロジェクター」のメリットは、子どもの学習意欲が高まる、双方型の授業ができる、授業の効率が上がるということです。ぜひ電子黒板・タブレット等のICT機器と黒板を使つての授業を上手に組み合わせ、書く力、考える力もつけることのできる効果的・効率的な授業を行なっていただきたいと思います。
--	--

	学校によっても、保護者の理解度によっても、現在は違いがありますが、ICT 機器や 1 人 1 人がタブレットを使用し、効果的な成果は、他校とも共有し、阿波市の子どもたちが、よりよい成果を実感できればと思います。 今年度は小学校の 4 年生から 6 年生の各教室に取りつけていただけていますが、中学校でも先ほど申し上げましたように、1 人 1 台端末で先生方が積極的に ICT 機器を活用されておりますので、ここに「電子黒板機能付きプロジェクター」を取りつけていただければ、授業を行なう上で、よりわかる授業ができるのではと、大きな期待を持っております。 続いて令和 3 年度全国学力・学習状況調査の結果についてですが、ICT を活用した授業が全国平均に比べ、積極的に行なわれていることが、資料の②—2 に結果として出ています。 ICT を活用し始めた頃より、着実に、「わかる授業」を行なってきた成果として、子どもの学力にもでてきているように思います。昨年は、コロナで臨時休校が長く続いたにもかかわらず、先生方のご努力で、しっかりと子どもたちに基礎的・基本的な知識や技能を身につけることが、全体的には、できていると、今回の学力調査の中で感じております。 子どもたちも、休校期間中の勉強に対する不安は、大きくあり、また、先生方も限られた時間の中で、知識を身につけさせるため、大変なご苦労があったと思います。 これらの調査結果を見ると、全国平均を上回っているか、同程度と出ています。各教科の誤解答から、課題がどこにあるかわかりますが、各学校によって、個人によっても課題は違います。先生方は、保護者に今後の対策や家庭学習の仕方、大切さをしっかりと説明され、個人の学力を大切にされ、指導されています。教科指導、授業改善において、先生方ご自身が厳しく評価されているところもありますが、子どもたちは、その思いにしっかり答えてくれており、課題はたくさんありますが、学力においても、学校生活においても、今後に期待できる結果を残しております。思いやりがあり、夢や目標を持っていることは、大変嬉しいことです。 今後も、この資料にありますように、阿波市の学力向上への取り組み方針にある 7 点を教員一人一人が楽しい学校生活、わかる授業を子どもたちが実感できるように進めていただきたいと思います。そのためには、保護者・地域の皆さんの協力なしでは、実現できません。資料の 3 点において、学力調査、学習状況調査を踏まえた上で、先生より、お一人お一人の保護者に面談において、お話いただき、学校・家庭・地域の
--	--

	連携を密にとってこそ、子どもたちの「生きぬく力」が育まれるのだと思います。 これからの変化が激しい社会では、子どもたちが個性を生かし、問題を解決して、生きぬく力が求められています。生きる力の３要素である「確かな学力」・「豊かな人間性」・「健康・体力」を育むことで、変化の激しい社会においても、子どもたち自身の力で未来を切り拓いていくことができます。 コロナの状況が収束し、我々自身が各学校を訪問できるようになった時には、現場の先生方の取り組まれている姿、子どもたちの様子をしっかりと見て、声を聞いた上で、少しでも、その声を届けることができればと思います。 毎年、申し上げておりますが、「子育てするなら阿波市」だと実感し、手厚いご支援に感謝いたしております。これからも、子どもたちが、生き生きと楽しく学校で学べますよう、ハード面でのご支援をよろしくお願いいたします。
藤井市長	ありがとうございました。続いて、大戸井委員、お願いいたします。
大戸井委員	教育委員の大戸井です。よろしくお願いいたします。 食育を基盤にした、知・徳・体の調和のとれた生き抜く力の育成につきて、「令和３年度全国学力・学習状況調査結果の分析報告」を受けまして、私の意見を述べます。 ６つある教育目標は、「阿波市総合計画」の取り組み方針と「阿波市教育大綱」の成果と課題を踏まえて策定された「阿波市教育振興計画」の基本方針に基づき設定されたものと理解しております。その中でも、教育目標１の食育を基盤にした、知・徳・体の調和のとれた生き抜く力の育成は学校教育の根幹とも言えるものであります。 そして、国連サミットで採択された「持続可能な開発目標」いわゆるSDGsの開発目標すべてに合致する内容をすべて含む、教育目標１の７項目については、関心の高いところであります。特に「生き抜く力の育成を重視した教育内容の充実」といった点では、想定外の連続であるこれからの人生における指針となるべきものと考えます。その具体策としての「阿波市の学力向上への取組方針」と「保護者・地域の皆さんへ」は、分かり易く、PDCAサイクルに則った素晴らしい施策と言えると思います。これらの施策は将来の阿波市を支える市民として、学んだ以上のことの連続した人生の様々な場面に出会っても、そこが世界中のどこで

	あったとしても、自分の全能力を動員して乗り越えていくこと、そうしたことを学ぶことによって、生きる力の一つになってくると思います。 人は、気持ちが、心が動いたときに行動する、と言われています。頭では分かっているけれども行動が伴わないということは、それは、心が動いていないからではないでしょうか。 未来を変えるのは今日の行動、今日の行動を変えるのは、この瞬間の決断である、そこを、阿波市の教育の「生きる力の育成を重視した教育内容の充実」によって、命令や支持をされて行動するのではなく、そうになりたいという気持ちや見方、そのためのとるべき行動は何かをと知るきっかけとなり、一人ひとりの心が自然に発動し、行動し、生きる力となり、未来においても阿波市市民として、幸せな気持ちを持つことが出来るように希望いたします。 以上です。
藤井市長	ありがとうございました。続いて、森委員、お願いいたします。
森委員	2 つ目のテーマについては、私の普段悩んでいる内容で、まとまりのない内容ですが、思っていることを述べさせていただきます。 本年度の学力・学習状況で、小学校の国語・算数、中学校の国語・数学ともに全国平均を上回っている内容と、課題となる内容もあり、悲観することもなく、かと言って楽観することもなく、結果をよく分析し、課題となる事柄について謙虚に振り返りながら、更なる向上を目指して努力し続けることが、関係者にとっては重要だと思います。 今回、中学校の「授業以外で学習する時間」は全国平均より時間が増えていて、学力の向上に着実に結びついたと思います。これは、家庭での家族の協力が力強くなされたのではないかと思います。逆に、小学校は全国平均より時間が少なくなっています。これは、この2年間新型コロナの影響で学校の授業時間が減少し、不安な状態のまま目標を見失いがちになり、教師の指示が細かいところまで及ばずに日常生活を送った結果が、小学生と中学生では一部の生徒で逆の結果が出たのかもしれない。 このことから考えると、小学校では家庭で自発的に一人で学習することは、困難な児童が多くて、リモートによる一斉授業は、タブレットパソコンの使い方に慣れ親しんで習得でき、かつ意欲的な取り組みのできる一部の児童にしか、有効に働かないのではないかと危惧しております。 ですから、小学校の場合はできるだけ学校での教師と児童の対面での

	授業を実施した方がいいと思っております。その方が児童同士の話し合いなどで多様な意見交換するなどして、学習内容を深め、人間関係の学びなどにも効果があると思います。 さて、それでも新型コロナに端を発して、GIGA スクール構想が具体的に各学校でも取り組むことになりました。このことによって、教師も児童生徒も想像を絶する不安と課題の多さに直面したことと思います。しかし、このような状況の下で、行政も市長様をはじめ議会議長様ほか、関係の皆様方のご理解とご支援で、多額の予算の確保等に力を入れてくださいました。 新型コロナの関係で、学校訪問ができていませんが、一昨年、一部の学校ですが学校訪問をした時に、既に他の市町村に先駆けて、デジタル教科書を導入できていましたが、学校訪問の結果、中学校よりも小学校の先生方が積極的に活用し、その結果授業が効率よく児童が集中して取り組む様子が見られました。小学校と中学校では目指すところに大きな差があるので、学習方法に違いが出るのは仕方がない面もあると思います。小学校でも、高度な活用ができているクラスもあれば、拡大して表示しているだけの場面もあり、その授業の内容に応じて活用できていました。 新型コロナに気を配りながらも、どのように活用できているのかを、今年の学校訪問では充実した授業展開をされているかを見せていただきました。そして、更に新型コロナの終息した後の小学校の ICT の効果的な活用による・学習内容の充実・コンピューターリテラシーの醸成に大きな期待をしております。 中学校での取り組みにも、発達段階や学習内容に応じて効果的な活用を通じて、同時に学力をつけるような授業の研究を期待したいと思います。というのも、中学校卒業後に高校・大学まで進学する場合や就職に関しても、日本の現状ではペーパーテストの成績による場合が圧倒的に多く、その基礎は義務教育に負うところが大きいと言わざるを得ません。ですから、できるだけ多様な経験を積みながらも基礎・基本となる知識や技能は、学び方も含めて義務教育で教え育んでいかなければなりません。 ところで、ICT は万能ではなく、非常に多感で人間関係が不安定になりやすい児童生徒の時期には、ICT の活用による合理的で科学的な学習も必要ですが、欠くことができないのは、多様な人間関係の中で、多角的・多面的な思考をしたり、人間関係を築いていくことではないでしょうか。ですから、先ほども述べた通り、できるだけ一斉休校にはせずに
--	---

	児童生徒間で切磋琢磨し、多面的思考する中で理解を深め、同時に認め合い協力し合える経験を積み重ねるなど、広い学力を育てるためには、何らかの形で登校して授業できるように工夫していくことが重要だと思っています。というのは、学力をどう捉えるかということにも関わってくると思いますが、池上彰氏は「池上彰の日本の教育がよくわかる本」の中で、三つの考え方を紹介しています。 一つ目は、可能性を学力とみる考え方。 二つ目は、修得した能力を学力とみる考え方。 三つめは、創造性を学力とみる考え方。 です。 普通一般的には、二番目の「修得した能力を学力とみる考え方」を学力といわれています。これは、ペーパーテストで量ることができるものが多いといわれています。しかし、学力を、問題解決をし、より高いところを目指して努力する力や創造性・芸術性なども学力として、幅広く捉えていると考えられます。 それから、学力の三要素として、次の三つがよく挙げられます。 一つ目は、「知識・理解」、二つ目は、「思考力・判断力・表現力」、三つめは、「能力を発揮するための基礎としての、主体性・多様性・共同性」、これらの三つが学習者個人のうちに獲得される能力、また、これからの変化の著しい社会を生きるためには「生きる力」として、次の三つが必要とされています。 一つ目が、「確かな学力」、二つ目が、「豊かな人間性」、三つめが、「健康体力」、新学習要領の中で、「確かな学力」とは、知識・技能はもちろんのこと、これに加えて学習意欲や自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決する資質や能力等まで含めたもの。 「学力の三要素」と「生きる力」を見比べてみると、比較的似ている部分があって、「学力」イコール「生きる力」と捉えることができる一面もあると思います。阿波市の目指す「生き抜く力」は「生きる力」の意味を強め徹底していこうとする態度を示していると思います。 ですから、阿波市の基本目標は、広い意味での「学力」、「生きる力」を目指していると思いますが、学力・学習調査の結果を軽視しているわけではありません。これからの社会で力強く生き抜くためには、「知識や技能」を高めさらに飛躍的な成長をするためには、幅広い意味での学力が重要だと思っています。 私は、主に小学校の教師として30数年教壇に立たせていただきました
--	---

	た。その中で、主に社会科教育の部会に身を置く年数が比較的多かったのですが、その間、徳島県の小学校では、社会科の中で、ずっと「問題解決型の学習」を推進してきました。今から50数年前からその重要性に気づいていたのだと思います。それ以前の社会科では、主に自然・社会事象・経済・歴史等、主に記憶することが中心の学習でした。でも、それだけでは限界があり、将来にわたり変化の激しい社会情勢の中では対応が難しいとの認識の下、様々な場面に応用ができ、その事象について自然的な条件・社会的な条件・歴史的な条件などを総合的に把握して事象を理解したり、様々な事象の中から問題点に気づき、予想を立ててから、自分で調べてみて、それをみんなで突き合わせてまとめ、さらに考えを広げていく、このようなプロセスを通して学習していました。大雑把に言うと「あつめる」「まとめる」「ひろげる」になります。この考え方は、これらの過程を経て、自分の意見・考えを持ち、その後でクラスの他の児童との意見を交流することで、多様な意見とも出会い、多様性を尊重したり、自分の考えの中に取り込んだりしながら、多面的で多角的な思考を深める。というような学習へと変遷してきました。 このような、問題解決的な学習は今後の社会を生きていくうえでの学び方として非常に重要な方法だと思っています。それは基本目標である「生きる力」を育成する方法として有効であると思うからであります。 狭い意味での学力は、これらの学習の過程で自然に獲得されていくと考えられています。しかし、社会や理科は主要な教科と言われながらも、学力調査はされていないのが残念です。 また、阿波市の地域的な特性を考えると、農業を主要な産業として振興していこうと多くの方々が力を注いでいます。そこで、「生き抜く力」を育てるためには食育を通して、生きる力の要素の一つである「体づくり」を同時にしていかなければなりません。 身近なところにいろいろな作物が充実しているので、それらを、今までにも取り組んできた地産地消の推進やキッズ野菜ソムリエの育成・給食指導を通しての食育等多くの実績を上げていますが、今後もさらに高いところを目指して取り組んでいかなければならないと思います。というのも、学習状況調査では、朝食の食習慣の良し悪しと学力に相関関係があるからです。 さて、水族館などの巨大な水槽を作る世界的な企業が香川県にあります。日プラ株式会社という水族館の巨大水槽の世界でのシェア 70%のオンリーワンの企業です。かなり前になり、現在は変更があるかもしれませんが、この会社の敷山社長の話を聞く機会がありました。採用試験は
--	--

	面接だけ、面接はいつでも、そして、その面接の内容は「今までに経験した成功したことについて」で、ペーパーテストはないとのことでした。社員となる人に何を求めたのでしょうか。 海外で仕事をするのに語学を求めているのではないのです。巨大な水槽を建設するにもかかわらず、建築の理論や技術はこの段階では求めているのです。それでも、数年後にはその企業の求めるオンリーワンの多能な社員に育つらしいのです。 このことから、今後生き抜いていく力として求められるのは、「成功体験」からくる、絶えず目標を持ち続けることや困難を克服して努力し続けること、また、仲間と協力することなどが重要な要素として考えられます。 さらに、よく似たようなことが、アメリカの野球界で大活躍している大谷翔平選手についてもあるのではないのでしょうか。彼にとって生きる力とは何なんだろうと。決してペーパーテストで測れるものではないでしょう。 その人間性については言うまでもなく、独自の高い目標を持ち続けることや途中で困難に出会ってもそれをバネにしてさらに上を目指す。かと言ってがむしゃらでもなく論理的に何が必要で、どう成長していくかを理解して努力し続ける。心・技・体のバランスがとれている。言葉が不自由な中でも対人関係がスムーズである。さりげない行動にも人間性の良さがあふれている。等々いくら挙げてもきりがないくらいであります。 ですから、義務教育の段階での授業以外の児童活動・生徒活動、各種の行事、部活動やコンクール、社会体育などでの多様な活動体験が、特に優勝などの成功経験が「学力」「生きる力」を更に高める原動力になってくると思われます。 以上取り留めもなく述べてきましたが、これらのことから、多様な「学力」・「生きる力」が育ち、私たちの阿波市のために、また、社会のために努力をし続ける人材が育つことが重要になってくると思います。そこを目指して関係の方々と連携しながら、今後の阿波市の教育を考えていきたいと思っております。
藤井市長	ありがとうございました。続いて、西渕委員、お願いいたします。
西渕委員	教育委員の西渕です。よろしくお願いいたします。他の委員と重なる感想ではありますが、私なりに述べさせていただきます・

	ただ今、ご説明いただいた全国学力・学習調査の結果では、阿波市の大半の児童・生徒たちは、夢や目標を持ち、学校へ楽しく通っていることが分かりました。より一層の学力向上へ向けても、阿波市では先駆けて様々な取り組みを行い成果も上がってきています。ICT 活用や、学習向上推進講師の派遣など、阿波市の児童・生徒は恵まれていると感じることが多くあり、阿波市が子育てに対して力を注いでくださっていることは、常日頃から感じています。 調査の結果にあるように、家庭での学習時間の問題や、朝ご飯を食べている児童・生徒の正答率がすべての教科において高い傾向にあることなどから、家庭教育が児童・生徒の成長にどれだけ大切かということが分かります。 これまでも、阿波市では家庭との連携を重視し、学力向上に向けて、保護者・地域の皆様へ協力をお願いしています。先ほどのご説明いただいた中に、「保護者・地域の皆様へ」とあります。この内容をご家庭で実践していただく事で、伸びていくのは学力だけでないと考えます。学習について話し合うことや、家庭のふれあいの時間を設けたりすることで、児童・生徒とかかわる時間が増え、保護者が児童・生徒を理解することができるようになります。双方の理解が深まれば、愛情を感じ、心豊かに育つことになり、命を大切にすることや、自己肯定感が高まることに繋がってもいくでしょう。 学力向上や心の成長のため、学校と家庭がそれぞれの教育について理解を深め、両者が正しく協力していくことは難しいことではありますが、多くの方の努力の集積によって効果が現れてくるものであるため、時間をかけて熱心に協力をお願いしていかなければなりません。もし、保護者の理解・協力が得られないのであれば、取り残しのないよう先生方や地域の方々が児童・生徒たちに寄り添っていかねばならないと思います。 児童・生徒が基礎学力をしっかり身につけることで、将来にどれだけ重要かということを保護者が理解し、学校教育に協力していただき、阿波市のすべての児童・生徒が家庭教育や教育機会によって格差が生まれることなく、生きる力を身につけられるよう、これからも様々な取り組みを行ってほしいと願います。 以上です。
藤井市長	ありがとうございました。続いて、高田教育長、お願いいたします。
高田教育長	各教育委員さんから、ご意見・ご提言をいただきましてありがとうございます。

	います。 昨年今年と、新型コロナウイルス感染症の影響によって、文教厚生常任委員や市教委による学校訪問が中止になりました。 本来であれば、各学校へ出向き、実際に子どもたちが活動する様子や教育環境を見たり、また、先生方の声を聞いたりすることで、学校教育の現状を把握し、取組への評価を行いながらご意見をいただくというのですが、今回は、限られた情報の中での会議となりました。 しかし、そのような状況の中にもかかわらず、委員の皆様方には、本市の教育行政や学校教育の一層の充実・発展のために、たくさんのご意見・ご提言をいただき、心から感謝申し上げます。来年は、必ず学校訪問をできると信じております。また、1人1台のタブレット、ICT機器を活用した授業が教育のスタンダードになると思っています。こういった姿を今の学校現場でしていただいておりますので、来年に期待したいと思っています。 さて、「生き抜く力」を育成するにあたり、その一部の学力については、先ほど、全国学力調査結果で報告したとおりでございます。 今回は、新型コロナウイルス感染症の影響下の実施であり、また、小学校では新学習指導要領が全面実施されてから初めての調査となりましたが、本市の状況は、概ね全国平均程度であることをご報告いたします。 この学力調査は、全国的な教育水準の中、子どもたちの学習到達度を把握するためのものですが、この調査結果から見える学力は、学力の一部であり、学校における教育活動の一側面でもあります。これをもって学力のすべてを評価するものではないと文科省も説明しております。 しかし、質の高い教育を目指し、前回の定例の教育委員会の中でも、委員さんからたくさんお話をいただきました。それぞれの学校が、この調査結果を数字だけで一喜一憂することなく、学力や学習状況調査を把握・分析し、今後の指導や授業改善に活かすために活用されているのかとご意見をいただきました。私は、当然しているものと思っておりますが、再度、そのことについては校長会等でも指示はさせていただきました。そのために活用することが、最も重要だと考えています。 今後の取組としましては、ICTを活用した授業を阿波市は県下に先駆けて推進してきた市でないかと思っておりますが、ギガスクール構想をさらに追い風とし、ICT支援員の積極的な活用を促し、ICTの有効的な活用を追究してまいります。また、学力向上推進講師も市独自の事業があり、英語講師も事業があります。ティームティーチング、さらには、学
--	--

	校、家庭、地域と連携した取組も進めてまいりたいと考えております。 次に学校教育目標についてです。先ほどの教育大綱でお示ししましたとおり、本市では「食育を基盤とし、知、徳、体の調和のとれた生き抜く力の育成」を学校教育目標としています。私の中には、しっかりとこの言葉が刻まれております。 生きる上で基本となる「食育」。健康の保持増進と体力向上を図る「体育」。この食育・体育は、命を受け継ぎ、命を守る生活の基盤となる教育です。そして、各教科で学ぶ「知育」。豊かな心を育む「徳育」。この知・徳・体の調和のとれた力を付けることが「生き抜く力」の育成と捉えています。 人格の完成をめざし、すべての教育活動をとおして、それらのバランスのとれた力を育成してまいりたいと思っています。 学校教育を進める上で、その指針となるのが学習指導要領です。この学習指導要領は、時代の流れや社会の変化に伴って、国が改訂しております。小学校は昨年度から、中学校は今年度から新しい学習指導要領でスタートしております。 今回の改訂では、新しい時代に必要となる資質能力の育成に向け、いくつかのキーワードがあるように思います。 「主体的・対話的で深い学び」また「個別最適な学び」と「協働的な学び」などがそうです。 例えば、新しい言葉ではあるものの、「個別最適な学び」についてですが、以前からも使用していた「個に応じた指導」とよく似ており、一人ひとりを大切にするという趣旨では同じだと捉えています。 しかし、今回は、教員の視点で捉える「個に応じた指導」という表現でなく、学習する人、子どもたちの視点から捉える「個別最適化の学び」としています。「協働的な学び」もそうです。 これは、教員が何を指導したかではなく、子どもたちが何を学び、どのようなことができるようになったかという、子どもたちの視点に重きを置き、指導することが求められていると思っています。こういう視点は以前からありましたが、国が、特にそのあたりに重きを置いたのでないかと強く感じました。 今後、学校における基盤的ツールとなる ICT を最大限に活用しながら、子どもたちにとって「主体的・対話的で深い学び」となる授業改善を目指し、子どもたちの生き抜く力を育んでまいりたいと考えています。 今後とも、皆様方にはご指導くださいますようよろしくお願いいたします。
--	--

藤井市長	ありがとうございました。 昨年度、児童生徒に１人１台のパソコン端末を整備したことで、今まで以上に ICT 機器を活用した教育の推進が可能となりました。従来の教育実践に、ICT 教育を加えることで、新しい学力向上の取組みが推進されると期待しております。 また、本日ご協議いただいた、新たな「阿波市教育大綱」の基本方針である「未来の阿波市を担う人づくり」に取り組むためには、保護者の皆様方や地域の皆様方のご協力は欠かせないものと考えております。今後とも学力向上の推進、教育環境の充実など、一層、努力して参りますので、本日ご参加の皆様方におかれましては、ご協力の程、よろしくお願いを申し上げます。 それでは、議題３の「その他」に移りたいと思います。 何かご意見・ご提言がございましたら、お願いいたします。 それでは、ご意見もないようですので、これで議事を、終了させていただきます。長時間にわたり、委員の皆様におかれましては、貴重なご意見・ご提言をいただきまして誠にありがとうございました。私の方からは「令和３年度全国学力・学習状況調査」の報告を瀧川先生からいただいた訳でございますけれども、大部分におきまして、全国平均を上回っている報告を受けまして、大変うれしく思っている次第でございます。今後とも、どうぞよろしくお願いをしたいと思います。 この変で、後の進行は事務局にお願いしたいと思います。
稲井次長	皆様、たいへん、お疲れさまでした。 本日の会議につきましては、阿波市総合教育会議運営要綱第６条に、『会議の終了後、その議事録を作成し、これを公表するものとする。』とされております。 委員の皆様には議事録ができ次第、ご確認をしていただいたのち、阿波市ホームページへ掲載し、公表する予定としておりますので、よろしくお願いいたします。 それでは、これをもちまして、「令和３年度 阿波市総合教育会議」を終了いたします。 ありがとうございました。